

からし種一粒の信仰があれば、山は乗り越えられる

おはようございます。今日の福音をもう一度見てみましょう。

イエス様は弟子たちを船に乗せ向こう岸へ先に行かせ、御自分は山で祈っていました。夜が明ける頃、イエス様は弟子たちのいる船のところへ水の上を歩いて行かれました。それを見た弟子たちは「幽霊だ」と言って怖がりました。その時イエス様は何と言われましたか？「安心なさい。わたしだ。恐れることはない」と言われましたね。するとペトロは「主よ、私も水の上を歩きたいです」と言いました。イエス様が「来なさい」と言われたので、ペトロは水の上を歩きはじめました。でも途中で怖くなり沈みかけてしまいました。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」というイエス様の言葉でした。

今日、皆様と分かち合いたいのは、二つの言葉についてです。

一つは今日の福音をもっと深く理解しやすくする為に他の箇所のことについてです。マタイの福音 17 章 20 節に「もし、あなたたちに一粒のからし種ほどの信仰があれば、この山に向かって『ここからあそこに移れ』と言えば、山は移るだろう」という皆様よくご存知の箇所がありますが、どのように理解されているのでしょうか？

「からし種一粒ぐらいの信仰で山が移される」ということでしょうか？これは可能なことですか？この頃、蒸し暑い日々が続いていますが、もし、私たちが熱心に祈って、“この教会がどこかもっと良い所、涼しい所に移されるように”と願ったら、そのようになるのでしょうか？今シスター方もミサに与っていらっしやいます。一生を祈りによって送っている生き方だと思いますが、祈っても移されない山を見て、「信仰の薄い者よ」と言えるのでしょうか？私たちはからし種一粒ぐらいの信仰をもっていないのでしょうか？

聖書で言う“山”とは移すことのできる山ではなくて、“乗り越えられる山”のことです。困難、不安、恐怖、憎しみ等の山のことです。この山を乗り越えなければならない。“移れ”というのは「乗り越えさせて下さい」ということです。

次は「恐れることはない」というイエス様の言葉について考えて見ましょう。この世の中に怖いもの、恐れるものはない、と言っているのではありません。私たちは生きていく間、死ぬまで恐れるものは沢山あります。不安や病、老いという恐れるものに囲まれています。しかし、あらゆる力の源であるイエス様、すべての源である御父がいるのに、大きなバックグラウンドのイエス様がいるのに、何を怖がっているのでしょうか？すべてを委ね、任せて下さい。

「どんなに登り難い山があっても、からし種一粒程の信仰があれば乗り越えられる」というイエス様の言葉は、私の前に不安や落ち込ませるようなこと、どのような難しさがあってもイエス様が守って下さるということです。信じましょう。一粒のからし種ほどの信仰があれば、私たちは自分の前にそびえている山がなくなるようにとは祈りません。乗り越える力を下さいという祈りができれば私たちはしっかりと乗り越えられると思います。これが信仰じゃないでしょうか。悪いものがなくなるように「イエス様、何とか奇跡を起こして下さい」と願うより、「その悪いことに負けないように、正しい姿を見せて他の人々と共に行けるように導いて下さい。力を与えて下さい」と祈る。これがまことの祈りではありませんか。

もう一回繰り返します。山は必ずあります。前にも後ろにも横にもあります。それをなくすことはできません。人間ですから、世の中ですから。私たちはみなつながっているからです。

今日のミサの前に意向として「今あるところで戦争が起こった」(グルジアとロシアの戦争)と申し上げました。この戦争のことを知り、傷ついている人々をニュースで見て「残念だなぁ」と言うだけ

のことではありません。「かわいそうだなあ」と言う位の痛みではありません。私たちは彼らと一つの体、一つの心で結ばれています。それを望んでいるのがイエス様のみ旨です。私たちはみんなつながっています。だから何の痛みでも、彼らの痛みは私たちの痛みです。前にある痛みから逃れることはできません。その痛みを乗り越える唯一の方法を思い出しましょう。

私たちが持っているこの信仰、信仰の力、信じる力、頼ることのできる力を信じましょう。そうしたら必ず乗り越えられると信じます。

ありがとうございました。